

バージョン 10 リリース 0
2017 年 2 月 28 日

IBM Campaign リリース・ノ ート

The IBM logo, consisting of the letters "IBM" in a bold, black, sans-serif font. Each letter is composed of horizontal stripes, with the "I" having 7 stripes, the "B" having 8 stripes, and the "M" having 6 stripes.

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、 33 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Campaign バージョン 10 リリース 0 モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： Version 10 Release 0
February 28, 2017
IBM Campaign Release Notes

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1998, 2017.

目次

第 1 章 IBM Campaign 10.0 のシステム要件と互換性	1	プライバシー・ポリシーおよびご利用条件に関する考慮事項	35
IBM Campaign の使用の前提条件	1		
IBM Campaign の資料のロードマップ	2		
第 2 章 バージョン 10.0 の新機能と変更点	5		
第 3 章 IBM Campaign 10.0 の修正された問題	11		
第 4 章 IBM Campaign 10.0 での既知の問題	17		
第 5 章 IBM Campaign 10.0 の既知の制限	23		
第 6 章 IBM Campaign Reports Package	27		
IBM 技術サポートへのお問い合わせの前に	31		
特記事項	33		
商標	35		

第 1 章 IBM Campaign 10.0 のシステム要件と互換性

IBM® Campaign は、IBM Marketing Software 製品スイートの一部です。Campaign バージョン 10.0 には、Marketing Platform 10.0 が必要です。

完全なシステム要件と互換性情報の保管場所

この製品と互換性がある IBM Marketing Software 製品バージョンのリストおよびこの製品に対するサード・パーティー要件のリストについては、「推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」という文書を参照してください。この資料は、IBM Support Portal Web サイト (<http://support.ibm.com>) の「詳細なシステム要件 (Detailed System Requirements)」の下にあります。

この資料には、IBM Marketing Software にログインしているときに、「ヘルプ」>「製品資料」を選択することでもアクセスできます。

IBM Campaign の使用の前提条件

IBM Campaign の使用を開始する前に、ご使用の環境が次の要件を満たしていることを確認してください。

- ユーザー・エクスペリエンスを向上させるには、最低でも 21 インチのスクリーンを使用します。
- ユーザー・エクスペリエンスを向上させるには、画面解像度を 1600 x 900 に設定します。それより下の解像度では、一部の情報が正常に表示されない場合があります。低い解像度を使用する場合、ブラウザ・ウィンドウを最大化してより多くのコンテンツが表示されるようにしてください。
- ユーザー・インターフェース間をナビゲートするには、マウスが最適です。
- ブラウザーのコントロールを使用してナビゲートしないでください。例えば、「戻る」や「進む」ボタンの使用は避けてください。その代わりに、ユーザー・インターフェースにあるコントロールを使用してください。
- ポップアップ・ブロッカー (広告ブロッカー) のソフトウェアがクライアント・マシンにインストールされている場合、IBM Campaign は正しく機能しないことがあります。最良の結果を出すには、IBM Campaign の実行時にポップアップ・ブロッカー・ソフトウェアを無効にします。
- 技術環境が最小システム要件とサポートされるプラットフォームを満たしていることを確認してください。*
- 適切なブラウザとそのバージョンを使用している必要があります。*
- アップグレードやフィックスパックの適用後に、ブラウザ・キャッシュをクリアしてください。これは、アプリケーションを更新した後の 1 度だけ行う必要があります。
- Internet Explorer (IE) を IBM Campaign や、Campaign フローチャートを使用するいずれかのモジュール (eMessage、Contact Optimization、Interact、Distributed Marketing) と使用する場合は、情報を横並びに表示するために複数回ログインするには、IE を開いて IBM Marketing

Software にログインします。そして、IE メニュー・バーで「ファイル」 > 「新規セッション」を選択します。新規 IE ブラウザー・ウィンドウで、IBM Marketing Software に同じユーザーまたは別のユーザーとしてログインします。

重要: これ以外の方法で複数のセッションを開かないでください。例えば、新しいタブを開いたり、「スタート」メニューまたはデスクトップ・アイコンから別のブラウザー・セッションを開いたり、IE の「ファイル」 > 「新規ウィンドウ」を使用したりしないでください。これらの方法を使用すると、アプリケーションに表示される情報が破損する恐れがあります。

*アスタリスクが示される項目の詳細については、「IBM Marketing Software Recommended Software Environments and Minimum System Requirements」を参照してください。

IBM Campaign の資料のロードマップ

IBM Campaign では、ユーザー、管理者、および開発者向けの資料とヘルプが用意されています。

表 1. 稼働

作業	資料
新機能、既知の問題、および制約について調べる	IBM Campaign リリース・ノート
Campaign システム・テーブルの構造について学習する	IBM Campaign System Tables and Data Dictionary
Campaign をインストールまたはアップグレードする	以下のいずれかのガイドを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> IBM Campaign インストール・ガイド IBM Campaign アップグレード・ガイド
Campaign により提供される IBM Cognos® レポートを実装する	IBM Marketing Software Reports インストールおよび構成ガイド

表 2. Campaign の構成と使用

作業	資料
<ul style="list-style-type: none"> 構成およびセキュリティーの設定を調整する ユーザーのために Campaign を準備する ユーティリティーを実行し、メンテナンスを実施する 統合について学習する 	IBM Campaign 管理者ガイド
<ul style="list-style-type: none"> マーケティング・キャンペーンを作成して配置する キャンペーンの結果を分析する 	IBM Campaign ユーザー・ガイド
フローチャート・パフォーマンスを改善する	IBM Campaign チューニング・ガイド
Campaign の機能を使用する	IBM Marketing Software IBM のマクロ ユーザー・ガイド

表 3. Campaign と他の IBM 製品との統合

作業	資料
IBM Engage	<i>IBM Campaign and Engage Integration Guide for IBM Marketing Cloud</i>
IBM Journey Designer との統合	http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSER4E/JourneyDesigner/kc_welcome_journeydesigner.dita?lang=en
IBM Digital Analytics との統合	<i>IBM Campaign</i> 管理者ガイド: 統合を構成する方法。 <i>IBM Campaign</i> ユーザー・ガイド: キャンペーンにおける IBM Digital Analytics セグメントを対象とした内容。
IBM Marketing Operations との統合	<i>IBM Marketing Operations</i> および <i>IBM Campaign</i> 統合ガイド
IBM Opportunity Detect との統合	<i>IBM Campaign</i> 管理者ガイド: 統合を構成する方法。 <i>IBM Opportunity Detect</i> 管理者ガイド および <i>IBM Opportunity Detect</i> ユーザーズ・ガイド: 製品を管理および使用する方法。
IBM eMessage との統合	<i>IBM Campaign</i> インストール・ガイドおよびアップグレード・ガイド: ローカル環境に eMessage コンポーネントをインストールして準備する方法。 <i>IBM eMessage</i> 起動および管理者ガイド: ホストされたメッセージング・リソースへの接続方法。 <i>IBM Campaign</i> 管理者ガイド: オファーの統合を構成する方法。
IBM SPSS® Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition との統合	<i>IBM Campaign</i> および <i>IBM SPSS Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition</i> 統合ガイド
注: この表にはリストされていない追加の統合を使用できる場合があります。 IBM Campaign の製品ツールおよびユーティリティー。 IBM Solution Engineering Projects も参照してください。	

表 4. Campaign 用の開発

作業	資料
REST API の使用	IBM Knowledge Center を参照
SOAP API の使用	<ul style="list-style-type: none"> <i>IBM Campaign SOAP API Guide</i> devkits\CampaignServicesAPI 内の JavaDoc
Campaign に検証を追加するために、Java™ プラグインまたはコマンド・ライン実行可能ファイルを開発する	<ul style="list-style-type: none"> <i>IBM Campaign</i> 検証 PDK ガイド devkits\validation 内の JavaDoc

表 5. ヘルプの入手

作業	手順
IBM Knowledge Center の使用	http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSCVKV/product_welcome_kc_campaign.dita にアクセスします。

表 5. ヘルプの入手 (続き)

作業	手順
オンライン・ヘルプを開く	<p>IBM Campaign アプリケーションを使用しているときに、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンテキスト・ヘルプ・トピックを開く場合は、「ヘルプ」>「このページのヘルプ」を選択します。 2. ヘルプ全体を表示する場合は、ヘルプ・ウィンドウ内の「ナビゲーションの表示」アイコンをクリックします。 <p>コンテキスト依存オンライン・ヘルプを表示するには、Web アクセスが必要です。IBM Knowledge Center のオフライン資料へのローカルでのアクセスおよびインストールについて詳しくは、IBM サポートにお問い合わせください。</p>
PDF の取得	<p>IBM Campaign アプリケーションを使用しているときに、以下のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ヘルプ」>「製品資料」を選択すると、Campaign PDF にアクセスできます。 • すべての製品 PDF にアクセスするには、「ヘルプ」>「IBM Marketing Software のすべての資料」を選択します。 • インストール・プロセス中に PDF のリンクをクリックします。
サポートの利用	<p>http://www.ibm.com/ に移動し、「サポート & ダウンロード」をクリックして IBM サポート・ポータルにアクセスします。</p>

第 2 章 バージョン 10.0 の新機能と変更点

IBM Campaign 10.0 には、いくつかの新機能と変更点が含まれています。

新しくサポートされるプラットフォームと、サポートが廃止されたプラットフォームのリストについては、「推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」という資料を参照してください。この資料は、IBM サポート・ポータル (<http://support.ibm.com>) の「システム要件の詳細」の下にあります。

アップグレード・パス

バージョン 10.0 はメジャー・リリースなので、8.6.x、9.0.x、または 9.1.x からアップグレードできます。手順について詳しくは、「IBM Campaign アップグレード・ガイド」を参照してください。

Marketing Platform、Campaign、Interact、および Contact Optimization 用の機能拡張されたユーザー・インターフェース

このリリースでは、使いやすいようにユーザー・インターフェースが更新され、無駄のない最新のデザインになり、改善されたインライン・テキストとエラー・メッセージが提供されています。外観が変わっても製品の機能は変わりません。更新された資料は「ヘルプ」メニューから入手できます。

「構成」プロパティのコンテキスト・ヘルプ

「設定」 > 「構成」で構成プロパティを表示すると、「ヘルプ」 > 「このページのヘルプ」を選択してコンテキスト・ヘルプを表示できます。例えば、

「**Campaign** | キャッシュ」ページのヘルプを要求すると、すべてのキャッシュ・オプションを具体的に説明するヘルプ・トピックが表示されます。この機能を使用するにはインターネット接続が必要です。

IMS に名前変更された EMM ファイルおよびディレクトリー

「EMM」を含んでいたファイルおよびフォルダーが「IMS」に変更されました。例えば、デフォルトの最上位ディレクトリーは C:\IBM\IMS、インストーラー名は IBM_Marketing_Software_Installer_10.0.0.0_linux.bin、IBM_Marketing_Software_Installer_10.0.0.0.sh、IBM_Marketing_Software_Installer_10.0.0.0_win.exe になりました。

IBM Marketing Cloud での IBM Engage との統合

IBM Campaign v10.0 は、IBM Marketing Cloud の IBM Engage と統合できます。IBM Engage は、組み込みの分析機能に加えて E メール、SMS、およびモバイル・プッシュを取り入れた、デジタル・マーケティングとリード管理のソリューションを提供します。この統合により、デジタル・マーケティング担当者は、それぞれの顧客対話を個別設定して追跡する機能、複数のチャンネルでやり取りする機能、および機密性の高い個人データを保護する機能を活用できます。マーケティング担当者は、IBM Campaign のセグメンテーション機能を IBM Engage と共に使

用して、特定のオーディエンスに絞ったターゲット設定、通信の個別設定、およびEメール、SMS テキスト・メッセージング、モバイル・プッシュ・キャンペーンによる顧客への連絡を行うことができます。詳しくは、「*IBM Campaign and Engage Integration Guide for IBM Marketing Cloud*」を参照してください。

IBM Journey Designer との統合

IBM Campaign のお客様は、IBM Journey Designer を使用して概要的なジャーニー・マップを設計および表示し、顧客が一連の過程で利用したメッセージングやタッチポイントを共感的に理解することができます。IBM Campaign のユーザーは、Journey Designer を使用して、理想的なカスタマー・ジャーニーおよびそのジャーニーの中で生じるさまざまな対話を戦略的に立案することができます。ジャーニーを作成する際に、特定の対話を既存のキャンペーンにリンクし、特定のユーザーに対して実行する要求を割り当て、その特定のキャンペーンに含める必要のある事柄についてコラボレーションすることができます。詳しくは、別個に用意された Journey Designer 文書を参照してください。

キャンペーン、セッション、オファー、セグメントのための拡張検索 (181352、211268)

フローチャートおよびフローチャート関連オブジェクトを検索することができます。これには、プロセス・ボックスの名前、構成の詳細、説明、所有者、ユーザー変数、ユーザー・データベース・テーブル、セグメント、関連オファーなど、キャンペーン・セッション・ファイル (.ses) に格納されているあらゆるオブジェクトが含まれます。

1. 以下のいずれかのロケーションに移動します。
 - 「キャンペーン一覧」ページ
 - 「セッション一覧」ページ
 - 表示モードでのいずれかのフローチャート・タブ
2. 「フローチャートの検索」をクリックします。

検索を行うと、現在のパーティションに含まれるすべてのキャンペーンのすべてのフローチャートが検索されます。検索では大/小文字が区別されません。現在、検索結果はその結果を明示的に消去するまで保持されます。詳しくは、「*IBM Campaign ユーザー・ガイド*」を参照してください。

注: フローチャートは、索引付けを行うまで検索できません。詳しくは、下記を参照してください。

.ses ファイルを索引付けしてフローチャートを検索可能にする

バージョン 10 では、フローチャートを検索する機能が導入されています。ただし、フローチャートは、索引付けを行うまで検索できません。フローチャートを検索可能にするには、以下の 2 つの方法があります。

- advSrchUtil (.bat または .sh) を実行して、パーティション内のすべてのフローチャートにバッチ処理で索引付けする。
- unica_acsesutil に -J オプションを指定して実行し、単一のフローチャートに索引付けする。

既存の索引は自動的に更新されません。正確な検索結果を得られるようにするため、以下の指針に従ってください。

1. IBM Campaign をアップグレードした後、直ちに advSrchUtil を実行して、パーティション内のすべての既存フローチャートのインデックスを作成してください。
2. 定期的に advSrchUtil を実行して、パーティション内のすべてのフローチャートの検索索引を作成または更新します。
3. 単一のフローチャートだけを対象にする場合は、unica_acsesutil セッション・ユーティリティーに -J オプションを指定して実行します。

初めて advSrchUtil を実行するときには、指定のパーティション内のすべてのフローチャートが JSON 内にシリアル化されて索引付けされることにより処理されます。

その次に advSrchUtil を実行するときには、前回の実行以降に変更または追加されたフローチャートだけが処理されます。

このため、最初の実行は後続の実行より時間がかかります。非常に大きいフローチャートは処理に数分間かかることがあるので、多数のフローチャートがあれば、ツールは完了までに長い時間がかかります。ベスト・プラクティスは、ツールを定期的に行うことです。例えば、通常として毎週数百のフローチャートを追加または変更する場合は、週に 2 回ツールを実行することを検討してください。

以下の例は、コマンドの実行方法を要約しています。詳しくは、「IBM Campaign 管理者ガイド」を参照してください。

- Unix/Linux: <Campaign_Home>/bin/advSrchUtil.sh <partition>
<campaignSharedHome (クラスター化されている場合)>
- Windows: <Campaign_Home>%bin%advSrchUtil.bat <partition>
<campaignSharedHome (クラスター化されている場合)>

このユーティリティーは、所定のパーティション内のすべてのフローチャートに対するアクセス許可のあるユーザー名とパスワードを入力するように、対話的にプロンプトを出します。IBM Campaign リスナーがクラスター化されている場合のみ、campaignSharedHome が必要となります。

- unica_acsesutil -s <Flowchart ses file> -h <partition_name> -J -o <output_file_or_directory_path> -y <user_id> -z <password>。セッション・ファイルを指定するために -s を含める必要があります。オプションの -y と -z は任意指定です。それらを省略すると、ユーザー ID とパスワードを入力するように、ツールがプロンプトを出します。すべてのオプションで大/小文字の区別があります。

暗号化規格として OpenSSL の代わりに GSKit が使用される。 (Epic 130497、Story 199501、Task 211566)

GSKit を構成するには、「IBM Marketing Platform 管理者ガイド」の指示に従います。手順の概要を以下に要約します。

1. IBM GSKit を使用して Campaign 証明書を生成し、CAMPAIGN_HOME/conf/config.XML で設定を構成します。

2. JAVA 証明書を生成します。
3. IBM Campaign GSKit 証明書を JAVA 証明書と交換します。
4. WebSphere® または WebLogic アプリケーション・サーバーで SSL 証明書を構成します。

注: アップグレードの場合: SSL 環境の既存のお客様は、SSL 証明書を削除して新しい証明書を GSKit を使用して構成する必要があります。既存の SSL 証明書は機能しません。手順について詳しくは、GSKit の文書と「IBM Marketing Platform 管理者ガイド」を参照してください。

Hortonworks ODBC ドライバー・サポート (211291)

HDP 2.3 向け Apache Hortonworks 64 ビット ODBC ドライバー (v2.0.5) が、Hive ベースの Hadoop ビッグデータ (ユーザー・データ・ソースのみ) のドライバーとしてサポートされるようになりました。

リスナー・スクリプト用の新しい環境変数: STALE_CONN_TIMEOUT (204453)

新しい環境変数 STALE_CONN_TIMEOUT が、IBM Campaign と Contact Optimization のリスナー・スクリプト・ファイル用に使用可能です。リスナー・スクリプト・ファイルは、rc.unica_ac/cmpServer.bat (Campaign 用) と ACOServer.sh/.bat (Contact Optimization 用) で、<CAMPAIGN_HOME>%bin にあります。

長時間実行するキャンペーンがバックエンド・データベースとの接続を失わないで続行できるように、STALE_CONN_TIMEOUT 変数が導入されました。接続が定義された秒数の間アイドル状態になると、その接続は再びオープンします。例えば、STALE_CONN_TIMEOUT=<seconds> のようにします。この環境変数を追加または変更する場合、リスナーを再始動する必要があります。接続が失われた場合、Campaign フローチャートまたは Contact Optimization サーバー・ログ・ファイルに、「[DB QUERY] 接続が失効しているため、データベース接続を再開しています」というデバッグ・メッセージが表示されます。

Hive ODBC.ini ファイルに追加のパラメーター GetTablesWithQuery=1 が必要 (206508)

Hive ベースの Hadoop ビッグデータ・ソースをユーザー・データベースとして使用している場合、Hive ODBC ドライバーの ODBC.ini ファイルに GetTablesWithQuery=1 の行を含める必要があります。この行は、GetTables ODBC API に対する Hive の制約に対処するために必要です。この行を省略すると、Hive Hadoop データ・ソースの接続タイムアウト・エラーが生じることがあります。この変更は、すべての Hive ODBC ドライバーに適用されます。詳しくは、「IBM Campaign インストール・ガイド」を参照してください。

Teradata データ・ソース・テンプレートの新しい構成プロパティ: UseGroupByForDistinct

新しいプロパティ

Campaign | partitions | partition[n] | dataSources | dataSourcename |

UseGroupByForDistinct が Teradata データ・ソース・テンプレートに追加されました。デフォルトで、このプロパティは FALSE です。このプロパティが有効であるとき、`<select query>` は DISTINCT ではなく GROUP BY ステートメントを使用します。

この追加の理由: IBM Campaign でテーブルが正規化テーブルとしてマップされていないとき、フローチャートは照会「`select DISTINCT <audience id> from <table>`」を実行して、固有のレコードを取り出します。そのような照会が Teradata に対して実行依頼されると、データベース上でデータの追加ソートが行われ、CPU 使用量が増大します。Teradata では、DISTINCT の代わりに GROUP BY を使用するように DBA に推奨しています。GROUP BY を使用すると、Teradata マルチ AMP 処理アーキテクチャーを活用できるためです。

新しい構成プロパティ: **cacheSystemDSQueries**

パフォーマンスを改善するために、新しい構成プロパティ

Campaign | partitions | partition[n] | server | optimization | cacheSystemDSQueries が追加されました。このプロパティを TRUE に設定すると、照会結果がキャッシュに入れられるので、IBM Campaign システム・テーブルに対する照会が複数回実行されることが少なくなります。FALSE に設定すると、照会結果はキャッシュに入れられません。デフォルト値は TRUE です。

診断目的での **unica_aclsnr.log** のトレース・ロギングを有効にする機能

IBM サポートと連携する際に、診断目的でトレース・ロギングを有効にすることができます。トレース・ロギングを有効にすると、トレース・イベントが、リスナー・ログ `unica_aclsnr.log` とフローチャート・ログ `<flowchart>.log` の両方に書き込まれます。トレース・イベントは、ログ・ファイル内で [T] で識別されます。

トレース・ロギングを有効にするには、以下を行います。

1. `setenv.sh` または `setenv.bat` ファイルに `UNICA_ACTRACE=Trace` という項目を追加します。
2. リスナーを再始動します。

注: トレース・ロギングはパフォーマンスを低下させることがあるので、完了した後は無効にしてください (その行をコメント化してリスナーを再始動します)。

スイート全体での **Web** アプリケーションのクラスター化

以前は、Web アプリケーションのクラスター化がスタンドアロン Campaign でのみサポートされていました。Web アプリケーションのクラスター化は、スイート内の他の統合された製品と共に IBM Campaign でサポートされるようになりました。例えば、Campaign が Web アプリケーションのクラスターにデプロイされた場合、ユーザーは IBM Marketing Platform、Contact Optimization、Marketing Operations、または eMessage を同じ Web アプリケーション・クラスター内で構成できます。Interact は Web アプリケーションのクラスター化をサポートしていませんが、Web アプリケーション・サーバー・クラスター内にデプロイされた IBM Campaign アプリケーションと共に構成することもできます。スティッキー・セッションのみがサポートされています。スケーラビリティを重視した製品であ

るため、セッション複製は行われません。フェイルオーバーは実装されていません。

パフォーマンスの向上 (195323)

Campaign+Marketing Operations 統合環境では、「保存して終了」フローチャートでのパフォーマンスが向上しました。

Web アプリケーション・サーバーのシステム・テーブル・データ・ソース接続を作成するためのインストール時の新規オプション

Web アプリケーション・サーバーの Campaign システム・テーブルへの接続を、インストーラーに作成させることができます。インストール時のデータ・ソース自動作成を有効にするには、「データ・ソースの作成」パネルで、「**Campaign** データ・ソースの作成」チェック・ボックスを選択して、アプリケーション・サーバーに関する情報を入力します。

- インストーラーによって、JNDI 名として `campaignPartition1DS` を使用したデータ・ソースが作成されます。
- インストーラーによってデータ・ソース接続が作成されるパーティションは 1 つのみです。複数のパーティションがある場合は、手動で追加の接続を作成する必要があります。
- WebLogic を使用する場合は、インストーラーによってデータ・ソースが作成されるようにしてあっても、JDBC ドライバーを手動で Web アプリケーション・サーバーのクラスパスに追加する必要があります。WebSphere の場合は、これをインストーラーが自動的に行います。

第 3 章 IBM Campaign 10.0 の修正された問題

以下の問題は、Campaign 10.0 で修正されました。

表 6. Campaign の修正された問題

ID	修正された問題
223812	文書の問題: パッケージ ID 動作 20595
221776	バージョン: 213486: カスタム・キャンペーン属性を 9.1.2.1 で保存できません。属性は無効です。テキストの長さを短くしてください。
221775	バージョン: 212799: 「詳細オプション」ウィンドウの「OK」ボタンをクリックしても、ダイアログが閉じません。ユーザーは「OK」ではなく「キャンセル」ボタンをクリックする必要があります。
221774	バージョン: 211648: 「コール・リスト」プロセス・ボックスが新しいフローチャートにコピーされる時、プロセス・ボックス内の抽出されたユーザー定義フィールドが失われます。
221639	大きなフローチャートで複雑な処理を行うとき、サーバー・ビジー (10453) のメッセージが報告されます。
221576	IBM Campaign のテーブル・マッピング画面で、正しいオーディエンス・フィールドを選択した後も「次へ」ボタンがグレー表示されたままになります。
219636	テンプレートを新しいフローチャートに貼り付けるとき、エラー 11107 が表示されます。
219311	プロファイル作成をするとき、10404 エラーが発生します。
219309	「メール・リスト」プロセス・ボックスが異常終了します (10404)。
219304	OCBC カスタマー環境の PMR 209964 で報告されたコア・ファイルの問題。
219004	unica_svradm STOP コマンドを使用すると、「スケジュール」プロセス・ボックスを使用してスケジュールに入れたフローチャートが、停止ではなく一時停止します。
218512	切り取り操作またはコピー操作の際にフローチャートが動作しなくなります。
216932	IN-DB 最適化がアクティブのとき、Campaign は照会を取り消さないで一時テーブルをドロップします。
216922	問題は、報告される実行許可時刻が、実際の時刻が実行許可待ちリストに (サーバーから) 反映される時刻より常に 5 時間早い (GMT) ことです。
216921	提供する製品を割り当てることができません - 「関連製品のデータ形式が無効です (Invalid Data Format for Relevant Product(s))」。
216875	編集モードのとき、ターゲット・セル・スプレッドシートで検索機能が十分に機能しません。
216785	選択ボックスに含まれるとき DB2 SQL Datafiltering が行われません。
216715	バージョン: 213762: 「コール・リスト」プロセス・ボックスのパラメーター・タブ内の PRE:VALUES がリセットされます。
216714	バージョン: 211648: 「コール・リスト」プロセス・ボックスが新しいフローチャートにコピーされる時、プロセス・ボックス内の抽出されたユーザー定義フィールドが失われます。
216711	バージョン: 198717: メール・リスト・オファーの属性が誤った値を取得します。
216709	バージョン: 212799: 「詳細オプション」ウィンドウの「OK」ボタンをクリックしても、ダイアログが閉じません。ユーザーは「OK」ではなく「キャンセル」ボタンをクリックする必要があります。
215064	フローチャート・プロセスがプラットフォーム構成設定を収集できないときに 10404 が発生します。
213571	「コール・リスト」プロセス・ボックスのためにプロセス・ボックス接続を復元すると、エラー 17583 が発生します。
213569	セグメント・プロセス「0 件のセグメントは後続処理を行わない」において、0 件のセグメントで後続のプロセスが実行されます。 "

表 6. Campaign の修正された問題 (続き)

ID	修正された問題
213567	マップされたテーブルに出力するとき、新しいマップ・フィールドが表示されません。
213566	Safari 7 ブラウザーでフローチャートの作業をするとき、右クリック・ボタンのメニューが開いたままになりません。
213565	フィックスパック 9114 を適用した後に、「応答」プロセス・ボックスの「ログ」タブで「ログ・フィールド」が表示されなくなります。
213564	IBM Campaign で eMessage プロセス・ボックスの選択されたフィールドが自動的に変更されます。
213563	出力ファイルの名前が変更されて出力フィールドが再マップされます。
213561	IBM Campaign : Campaign のオファー・ページでサーバー・サイドの妥当性検査が行われません。
213559	日本語の IE 11 で、セグメント・プロセス・ボックスのフィールドから項目がはみ出しています。
213557	Chrome を使用してセグメントをセグメント・プロセスに追加してから最初のセグメントを下に移動すると、リストが乱雑になります。
213554	オファー API のデフォルト属性にデータが追加されません。
213553	テーブルを再マップすると、「オーディエンス ID フィールド」が空になります。
213551	セグメント・プロセスから入力を削除した後に「一般」タブにナビゲートすると、セグメントは削除されずに、セグメントの不一致が生じることがあります。
213550	Campaign 内の「抽出」ボックスで、「eMessage ランディング・ページ」が選択項目として表示されません。
213548	データ・ソースで MAXQUERYTHREADS パラメーターを使用してデータベース接続を絞り込むことができません。
213547	条件値が「選択」プロセス・ボックスに保持されます。
213544	実行された抽出からダウンストリームで単一のプロセス・ボックスを実行すると、テーブルまたはビューが存在しないというエラーになります。
213543	ユーザー定義フィールドとユーザー定義フィールドの Else ステートメントとで、NULL 値の扱い方に矛盾があります。
213541	フローチャート名が変更されるとスケジュール・タスクが失敗します。
213535	MO-UC 統合がオンのとき、ユーザーは「最適化」プロセス・ボックスでオファーを更新できます。
213530	IBM Campaign で、英語以外の文字での Campaign カスタム属性は、マップされた DB テーブルにエクスポートされるときに切り捨てられます。
213529	ETL は TargetCellID の数を使用して treatmentinstid を計算します。
212054	バージョン: 203553: IBM Campaign で、英語以外の文字での Campaign カスタム属性は、マップされた DB テーブルにエクスポートされるときに切り捨てられます。
208214	フィックスパック 9114 を適用した後に、「応答」プロセス・ボックスの「ログ」タブで「ログ・フィールド」が表示されなくなります。
206338	IBM Campaign の複数のユーザーが編集モードで同じフローチャートを開くと、正しくないメッセージが出されます。
205999	SQL Developer から ASCII 文字をコピーまたは貼り付けすると、Campaign にアクセスできなくなります。
205997	IBM Campaign: TCS のセル・コードが正しく保管されません。
205995	多数のオブジェクトがあるとき、カタログ・ウィンドウが破損します。
205992	割り当てられたオファーが「最適化」プロセス・ボックスに表示されません。
205991	セグメント・プロセスから入力を削除した後に「一般」タブにナビゲートすると、セグメントは削除されずに、セグメントの不一致が生じることがあります。

表 6. Campaign の修正された問題 (続き)

ID	修正された問題
205990	「モニター」ページで「開始時刻」または「終了時刻」でソートしても、正しいソート順序になりません。
205988	拡張オファー検索での「オファー・フォルダー」の使用が正しく機能しません。
205987	EMESSAGE - ETL は TargetCellID の数を使用して treatmentinstid を計算します。
205986	オファー API のデフォルト属性にデータが追加されません。
205985	IBM Campaign : Campaign のオファー・ページでサーバー・サイドの妥当性検査が行われません。
205984	選択の実行を実行する際に、存在しない入力テーブルと、スナップショットに接続された「抽出」プロセス・ボックスを指定し、それら両方をマージに接続すると、10404 が発生します。
205982	カスタム・マクロ・フォルダーが、照会ヘルパー内のマクロ・フォルダー・リストの先頭にありません。
205981	セッション・フローチャートのスクロール・バーをクリックできません。
205980	IBM Campaign でフローチャートの「スケジュール」ボタンをクリックすると、スケジュールの表示数が増加を続けます。
205979	テーブル・マッピングの際にテーブル・フィールドがアルファベット順に表示されません。
205978	PO05072 作成されたユーザー定義フィールドでは、更新するまで「ログ」タブが表示されません。
205973	IBM Campaign でユーザーにテスト実行の許可があるとき、停止/一時停止が無効になります。
205972	データベース列にハイフンがある場合、照会ビルダーでストリングが切り捨てられます。
205970	Safari では、プロセス・ボックスをテンプレートにコピーする操作は機能しません。 Safari では、右マウス・クリックですべてのボックスのチェック・マークが外れます。
205969	ユーザー・テーブルを素早く再マップすると、テーブル・マッピングが重複することがあります。
205968	EMSSAGE - 「抽出」プロセスで「eMessage ランディング・ページ」を選択すると、10404 エラーがスローされます。
205967	スケジュール・ボタンを繰り返しクリックすると、スケジュールのプルダウン・メニューに同じ値が複数回表示されます。
205965	「実行スケジュール」画面で、「詳細」列の内容が文字化けしています。
205963	「ターゲット・セル」スプレッドシートに、選択ボックスのカスタム属性値リストのスクロール・バーが表示されません。
205962	テーブル列マッピングのダイアログ・ボックスで作業するとき、テーブル列の名前の順序が正しくありません。
205961	多数のフローチャートがあるキャンペーンでは、キャンペーンのリスト・ページの「タブの表示」ポップアップ・ボックス内に機能するスクロール・バーがありません。
205959	IBM Contact Optimization: ACOOptAdmin.sh による最適化セッションの実行は、「指定された URL に接続できません」というエラーで失敗します。
205958	IC 9.0 では異なるオーディエンス・レベルのコンタクト履歴の追跡ができません。
205957	「スケジュール」ボタンを高速で複数回クリックすると、メニューが重複して表示されます。
205954	SQL Developer から ASCII 文字をコピーまたは貼り付けすると、Campaign にアクセスできなくなります。
205953	日本語ユーザーの IE 11 でボックスからテーブル・フィールドがはみ出しています。
205952	IBM Campaign : 「テキスト・フィールド - 数値」型のセル属性は、ゼロ (0) 値を保存しません。
205951	オーディエンス・ソートは、1 次オーディエンス・レベルのみで機能します。その他のオーディエンス・レベルでは機能しません。
205950	64 文字より長いテーブル・カタログを保存する機能により、DB エラーが生じて、カタログをグローバルにロードすることができません。
205949	日本語文字があるフローチャートをスケジュールリングする際の問題

表 6. Campaign の修正された問題 (続き)

ID	修正された問題
205948	Chrome を使用してセグメントをセグメント・プロセスに追加してから最初のセグメントを下に移動すると、リストが乱雑になります。
205947	Chrome ブラウザーで、メール・リストの「パーソナライズ」タブにある「1 つ上へ」ボタンと「1 つ下へ」ボタンの機能に一貫性がありません。
205946	スナップショットと抽出の両方におけるシーケンスの順序付けの問題。
205945	フランス語を使用するとき、「ログの表示」ボタンが機能しません。また、フランス語の文字「ùúéèèëÿ」が含まれるキャンペーンとフローチャートを開くことができません。
205943	コンタクトとレスポンスの履歴に追加された新しいフィールドが、既存のフローチャートでは使用できません。
205942	データ・ソースで MAXQUERYTHREADS パラメーターを使用してデータベース接続を絞り込むことができません。
205941	EMESSAGE - IBM Campaign で eMessage プロセス・ボックスの選択されたフィールドが自動的に変更されます。
205940	Unica の「コール・リスト」タブにオファーのパラメーターが表示されません。
205939	プロファイル選択フィールド・アプレットの複数選択が機能しません。
205938	バインド変数を使用するためのテンプレートからのオファー作成。
205937	セル属性がアルファベット順にソートされません。
205936	IBM Campaign: 選択プロセスにリストされたディメンション・テーブルのすべてがフローチャート・レポートにリストされてはいません。
205935	PO04374 ターゲット・セルのカスタム属性がスクロールしません。
205934	ユーザー定義フィールドとユーザー定義フィールドの Else ステートメントとで、NULL 値の扱い方に矛盾があります。
205933	実行された抽出からダウンストリームで単一のプロセス・ボックスを実行すると、テーブルまたはビューが存在しないというエラーになります。
205932	フランス語ロケールでの永続的なユーザー定義フィールドの問題。
205931	9.1.0.3 で「値」から複数のカテゴリーを選択することができません。
205930	IBM Campaign で、メール・リストのプロセス・ボックスに、テスト実行のためにコンタクト履歴に書き込むオプションがあります。
205929	カスタム・マクロを編集すると名前の重複エラーが生じます。
205928	64 文字より長いテーブル・カタログを保存する機能により、DB エラーが生じて、カタログをグローバルにロードすることができません。
202203	カスタム・マクロを編集すると名前の重複エラーが生じます。
202202	64 文字より長いテーブル・カタログを保存する機能により、DB エラーが生じて、カタログをグローバルにロードすることができません。
199729	IBM Campaign: サポートされないブラウザー Firefox を使用する際のクロス・サイトのスクリプト問題。
196876	GET 要求で機密性の高いパラメーターが渡されます。
196328	実行中の UNICA_ACSVR プロセスが DB2 データベースと通信するときに SQL30081N TCP/IP ソケット・クローズ・エラーが発生します。
190160	コンタクト履歴は、複数の異なるセルを単一の処理に結合します。
183490	カタログをロードする際にフォルダー所有者の権限が守られません。
176048	プラットフォームにログインした後に Campaign ページに移動しないで再びブラウザーからログアウトすると、unica_acsvr プロセスが終了しません。

表 6. Campaign の修正された問題 (続き)

ID	修正された問題
136811	スナップショット・プロセスの「1 つ上へ」 / 「1 つ下へ」 ボタンが正しく機能しないことがあり、これらのボタンを使用するとスクロール・バーが不適切な場所にジャンプします。
130933	テーブルのマッピング中または再マッピング中に、スクロール・バーのスライダーをクリックまたはドラッグしても移動しません。
18991	ユーザーが複数のロケールで同じフローチャートを作成した場合、ユーザー定義フィールドは元のロケールと同じように表示されます。
17199	オファー属性の表示が正しくありません。

第 4 章 IBM Campaign 10.0 での既知の問題

Campaign 10.0 には、次の既知の問題があります。

表 7. Campaign の既知の問題

ID	既知の問題
239142	カウント・フィルター演算式が正しくないためにオーディエンス・プロセスが失敗した場合、ユーザーがフィルター演算式を削除し、条件を追加してオーディエンス・プロセスを再び実行すると、プロセスは失敗します。条件は考慮されず、代わりに前のカウント・フィルター演算式が使用されるため、結果として失敗します。オーディエンス・プロセスを正常に実行するためには、オーディエンス・プロセス構成ウィンドウを再度開き、「条件」、「保存」、「閉じる」の順にクリックする必要があります。これで、オーディエンス・プロセスは条件を考慮して正常に動作するようになります。
229870	<p>問題: IBM Campaign 10.0 リリースが、IBM Global Security Kit (GSKit) バージョン 8.0.50.41 をインストールします。IBM Global Security Kit (GSKit) は、数多くの IBM 製品でその暗号機能および SSL/TLS 機能が使われている共通コンポーネントです。IBM Campaign、IBM GSKit をグローバル・レベルのインストールとしてインストールします。IBM Global Security Kit (GSKit) のインストールには、UNIX の場合は root ユーザー役割、Windows マシンの場合は Administrator ユーザー役割が必要です。しかし、IBM Campaign 10.0 のインストールまたはアップグレードが、root 以外のユーザー役割またはアドミニストレーター以外のユーザー役割で行われた場合、IBM Global Security Kit (GSKit) はインストールされません。IBM Campaign 10.0 インストール・ログには、IBM Global Security Kit (GSKit) のインストールの失敗に関するエラー・メッセージが無く、IBM Campaign v10.0 環境で構成された SSL を使用すると、ユーザーは Campaign 分析サーバーを始動することができません。</p> <p>回避策: IBM_Campaign_Crypto_10.0.0.0_IF02_<Operating_System> コマンドを、IBM Campaign 分析サーバーがインストールされているシステムで実行します。これによって、IBM Global Security Kit がインストールされます。必ず UNIX では root ユーザー役割、Windows では administrator ユーザー役割を使用してコマンドを実行してください。手順について詳しくは、IBM_Campaign_10.0.0.0_IF02_Readme.txt を参照してください。</p>
214084	プロセス・ボックス名に使用される括弧記号「)」が、セル・レポートで不正確な右大括弧「]」として表示されます。

表 7. Campaign の既知の問題 (続き)

ID	既知の問題
224257	<p>問題: 「キャンペーン・サマリー」 ページでキャンペーンを変更した後、そのキャンペーン内でフローチャートを開いて保存することなく、advSrchUtil を実行します。それらのフローチャートでは、変更されたキャンペーン構成を検索できません。これは稀なユース・ケースです。ユーザーは通常、フローチャートを開いてから変更し、そして保存します。キャンペーン・サマリー構成を変更した後に保存されたフローチャートでは、この問題は生じません。</p> <p>例: 「キャンペーン A」には、FC1、FC2、および FC3 の 3 つのフローチャートがあります。「キャンペーン A」の説明に「IBM」の語が含まれるように変更してから、FC3 を開いて保存します。他のフローチャートには何も行いません。ここで、advSrchUtil を実行して「IBM」を検索すると、FC3 が見つかります。しかし他のフローチャートではタイム・スタンプが変更されていないために advSrchUtil が再索引付けしなかったため、検索結果として表示されません。</p> <p>回避策: 以下のいずれかの回避策を使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • advSrchUtil を実行する前に <CAMPAIGN_HOME>/bin/ のファイル .advSrchUtil.last を削除して、所定のパーティション内にあるすべてのフローチャートに強制的に索引付けします。 • advSrchUtil を実行する前に、フローチャートを開いて保存します。 • unica_acsesutil を -J オプションと共に使用して、影響を受ける個々のセッション・ファイルに索引付けします。
213697	<p>Campaign が WebLogic 12.1.1 に配置されるとき、Campaign のアプリケーション・イメージが表示されません。イメージを表示するには、Campaign/WEB-INF/web.xml ファイルに次の行を追加します。</p> <pre data-bbox="293 982 1039 1119"><filter-mapping> <filter-name>springSecurityFilterChain</filter-name> <url-pattern>*.svg</url-pattern> </filter-mapping></pre>
220609	<p>フローチャートを削除すると、「要求された操作を完了できませんでした」というエラー・メッセージが表示されます。 org.apache.axis2.AxisFault: javax.xml.stream.XMLStreamException: "SYSTEM" とシステム ID の間に空白文字が必要です。詳しくは、Web アプリケーション・サーバーの campaignweb.log を参照してください。また、リスナー・ログ・ファイル masterlistener.log および unica_aclsnr.log も参照してください。</p>
219602	<p>Engage: すべてのマップ・フィールドが同期フィールドとしてマーク付けされているとき、プッシュ・プロセス・ボックスの実行は失敗します。プッシュ・プロセス・ボックスを実行すると、以下のエラー・メッセージが出て失敗します。</p> <p>21901: 内部エラー。IBM Engage からエラーを受け取りました: リストのインポート実行中にエラーが発生しました。詳細: 受信者の追加中および更新中にエラーが発生しました。ジョブ ID:</p> <p>ユーザーが必要なフィールドよりも多くを同期フィールドとしてマーク付けしたときに、このエラーが発生します。 Campaign でユーザーが同期フィールドとしてマーク付けできるのは、Engage データベースで同期フィールドとして許可されているフィールドです。</p>
213733	<p>「Campaign」 > 「分析」 タブから PDF モードで Campaign レポートを表示するとき、「レポート」ドロップダウン・リストはレポート・ビューの背後にあって非表示になります。これは Microsoft Internet Explorer の既知の問題です。</p>

表 7. Campaign の既知の問題 (続き)

ID	既知の問題
222234	<p>一時テーブルを有効にすると、すべてのプロセス・ボックスの実行がブロックされて、エラー「ORA-00942: 表またはビューが存在しません」がスローされます。これは、編集のためにフローチャートを開き、「詳細設定」 > 「サーバー最適化」の順に選択して、「このフローチャートでは一時テーブルを使用しない」のチェック・マークを外すときに生じます。</p> <p>このエラーが生じた理由の 1 つは、TEMP テーブルが割り振られてフローチャートで使用された後に、ユーザーが「TempTablePrefix」を変更したことです。このエラーを解決するには、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ユーザーは一時テーブルのプール割り振りをクリーンアップして、このエラーを解決できます。 https://www.ibm.com/developerworks/community/wikis/home?lang=en#!/wiki/W3a9d2a3c495a_47b6_97a9_e2b8f68b2e88/page/Understanding%20the%20TempTablePool%20Feature%20for%20IBM%20Campaign を参照してください。 2. その特定のフローチャートの一時テーブルを無効にします。これを行うには、「詳細設定」 > 「サーバー最適化」の順に選択して、「このフローチャートでは一時テーブルを使用しない」にチェック・マークを付けます。
213372	<p>「抽出」プロセス・ボックスで、いくつかの検索可能フィールドが検索されていません。「抽出」プロセス・ボックスで参照される「最適化」リストは、フローチャート拡張検索機能では検索できません。</p>
204347	<p>LARGE_DATA: ブラウザーの異常終了 - 700 個のセグメントがある「メール・リスト」プロセス・ボックス - 各セグメントに 512 個のオファーで保存します。</p>
220705	<p>LARGE_DATA: 「ディメンション・テーブル」フィールドのプロファイル作成数が不正確で、プロファイル作成のパーセンテージが 100% と表示されますがプロファイル作成は進行中です。</p>
222087	<p>Campaign Web アプリケーションの他のクラスター・ノードで、オファー・フォルダーが複製されません。</p>
213600	<p>ユーザー DB テスト: Amazon Redshift: データベース内最適化が有効であるとき、「選択」プロセス・ボックスのセル・サイズが不正確です。</p>
211253	<p>複数の列があるファイル・ベースの入力で異なる形式の日付が含まれている場合、日付が正しく読み取られません。</p>
221771	<p>値が 40.68 であるユーザー定義フィールドを新しいスナップショット・テーブルにエクスポートすると、精度が失われます。</p>
213525	<p>HP Vertica: テーブルからブール・データ型のデータをエクスポートする際にエラーが発生します。</p>
212890	<p>Amazon Redshift ではブール型の列は、テーブル・マッピングで「テスト」フィールド型として認識されます。</p>
194989	<p>「セグメント」プロセス・ボックスの実行中、キャンペーン・サーバーのプロセスがエラー 10404 で異常終了します。</p> <p>回避策: 「抽出テーブルの作成」にチェック・マークが付けられているすべての「セグメント」プロセス・ボックスで、以下を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「セグメント」プロセス・ボックスの「抽出テーブルの作成」オプションのチェック・マークを外します。 2. 「セグメント」プロセス・ボックスの下に「抽出」プロセス・ボックスを追加し、後続のプロセスでこの抽出の出力を使用します。

表 7. Campaign の既知の問題 (続き)

ID	既知の問題
198739	<p>フローチャートの「詳細設定」の下で「データベース内最適化を使用する」を選択すると、「トラッキング」プロセス・ボックスおよび「レスポンス」プロセス・ボックスの実行がエラー 10404 で失敗し、スタック・トレースが生成されました。</p> <p>回避策: 「トラッキング」プロセス・ボックスまたは「レスポンス」プロセス・ボックスを他のプロセス・ボックスと一緒に含むフローチャートの「データベース内最適化を使用する」を無効にします。それが可能でない場合は、新規フローチャートを作成し、その新規フローチャートに「トラッキング」、「レスポンス」、またはその両方と「選択」のみを構成します。ここで「データベース内最適化を使用する」を有効にすることができます。</p>
185658	<p>ビッグデータ: ローダー区切り文字 "¥t" の場合、データをビッグデータの出力テーブルにコピーできません。</p> <p>Hive ベースの Hadoop ビッグデータは、タブ文字 (/t) をサポートしていません。タブ文字を LoaderDelimiter 値として使用しないでください (Campaign partitions partition[n] dataSources dataSourceename)。</p>
194575	<p>ビッグデータ: 「抽出テーブルの作成」オプションにチェック・マークが付けられていると、「セグメント」プロセス・ボックスの実行がエラーで失敗します。回避策: 「セグメント」プロセスの下に「抽出」プロセスを配置して、「セグメント」内での「抽出」を実行できます。</p>
該当なし	<p>ビッグデータ: Hive サーバー上の一時データ・ファイルのアップロード・ロケーションは /tmp でなければなりません。</p> <p>Hive ベースの Hadoop データ・ソース (BigDataODBCHiveTemplate) には、プロパティ LoaderPreLoadDataFileCopyCmd (Campaign partitions partition[n] dataSources dataSourceename) が使用されます。このプロパティは SCP を使用して、IBM Campaign から Hive ベースの Hadoop システム上の temp フォルダーにデータをコピーします。現在、このロケーションは /tmp にする必要があります。これは HDFS ロケーションではなく、ファイル・システムのロケーションでなければなりません。</p>
175825	<p>defaultBehaviorWhenOutputToFile を「新規ファイル作成」に設定しても、初めて新規出力 (エクスポート) ファイルを選択する場合にしか正常に動作しません。既存の出力ファイルを変更して新規出力ファイルを選択しようとする、オプション「データ追記」がデフォルトで選択されます。これは、手動で「新規ファイル作成」に変更できます。</p>
176876	<p>「ユーザー変数名」に 21 文字を超える DBCS を入力すると、次のエラー・メッセージが表示されます。11532 長さ超過エラー: 位置 [0] の UserVar でユーザー変数名が 64 文字を超えています</p>
178526	<p>Campaign_Install.log における、致命的ではない次のエラーは、無視してかまいません。Campaign のインストールを中断してから再開すると、次のエラーが記録されます。</p> <p>「com.unica.install.ia.custom.ManagerReadConfigurationStatus: ERRORAdditional Notes®説明: エラー - class com.unica.install.ia.custom.ManagerReadConfiguration NonfatalInstallException "[xX][mM][IL]" と一致する処理命令ターゲットは許可されません。」</p>
該当なし	<p>フローチャートの実行時に、エラー「31606: 履歴テーブルが変更されました (31606:History table are changed)」が出されて「メール・リスト」プロセス・ボックスの構成が解除される。</p> <p>1. フローチャートの作成とメール・リスト・プロセスの追加の前に履歴テーブルがマップされる場合は、問題がありません。 2. ステップ 1 に従わない場合でも、エラーが表示された後に履歴テーブルをマップできます。フローチャートを編集し、プロセス・ボックスを構成すれば、プロセスは実行されます。</p>

表 7. Campaign の既知の問題 (続き)

ID	既知の問題
該当なし	非 ASCII データを Campaign 8.6 にマイグレーションした後、ターゲット・システムで Campaign フローチャートを開くことができない場合があります。セッション・フローチャートは正常に開きます。この問題を回避するには、上書きモードでキャンペーンを再度マイグレーションします。これで、フローチャートを開くことができます。
2968	ほとんどのウィンドウにホット・キーが実装されていません。Dojo 実装では、キーボード・ショートカットを使用して一部の機能をアクティブにすることができません。ユーザーはその代わりにボタンをクリックしなければなりません。
13460	「メール・リスト」プロセス・ボックスの「実現」タブで「ファイルにエクスポート (Export to File)」オプションがチェックされていないとき、「サマリー・ファイル」オプションが有効になります。しかし、これは有効になるべきではありません。
TT DEF062333	関連付けられた製品に関する情報が、Marketing Operations でオファーに表示されない関連付けられた製品を伴う Campaign で作成されたオファーが、Marketing Operations でインポートされる際に、関連付けられた製品に関する情報が Marketing Operations で表示されません。
TT DEF063392	「前のページに戻る」をクリックすると、UI が崩れる場合がある。ブラウザのコントロールではなく製品内のリンクを使用してナビゲートしてください。
75262	「前のページに戻る」をクリックすると、UI が崩れる場合がある。ブラウザのコントロールではなく製品内のリンクを使用してナビゲートしてください。

第 5 章 IBM Campaign 10.0 の既知の制限

Campaign 10.0 には、次の既知の制限があります。

表 8. Campaign の既知の制限

ID	既知の制限
232032	1 つのサーバー (マシン) 上で開始できる IBM Campaign リスナーは 1 つだけです。
217488	Campaign でローダー・スクリプトをトリガーするまでは、IBM は Redshift 用のデータベース・ローダーをサポートできます。ローダー・スクリプトを実行する際の問題は、IBM のサポート対象外です。
222934	拡張検索 UI での検索パフォーマンス: 検索結果が UI に表示されるまでの時間。ページ・サイズが 500 のとき、この時間はやや長くなります。例えば、IE11 で約 30 秒かかります。10 (デフォルト)、25、50、100 などの他のページ・サイズでは、パフォーマンスは良好です。
213088	保護された環境に IBM Campaign がインストールされていても無保護の環境に IBM Cognos がインストールされている場合、Microsoft Internet Explorer 11 を使用するとき、Cognos レポートは表示されません。回避策: IBM Campaign が HTTPS で構成されている場合、IBM Cognos も HTTPS で構成します。
211293	<p>IBM Campaign で、組み込みマクロ Current_Date() を Hive 1.2 ベースの Big Data インスタンスに対して実行するとエラーになります。Hive ODBC ドライバーは CURRENT_DATE マクロによるインターバル値の取得をサポートしていません。例えば、以下の照会を実行すると Hive エラーになります。</p> <pre>SELECT DISTINCT customerid FROM Customer_date WHERE ((Customer_date.my_date_mmdyyyy - CURRENT_DATE()) >= 7)</pre> <p>エラー: Hive 2 内部エラー: interval_day_time 型からの変換はサポートされません。</p> <p>回避策: Hortonworks を使用する Hive に対する RAW SQL 照会で CURRENT_DATE 関数を使用するには、以下の形式で SQL を実行します。</p> <pre>SELECT DISTINCT customerid FROM Customer_date WHERE (current_date() - my_date_mmdyyyy) = interval '0 0:0:0' day to second</pre>
該当なし	ビッグデータ: フローチャート内のプロセス・ボックスに対して UPDATE 操作を実行するには、ACID プロパティをサポートするように HIVE テーブルがトランザクション・テーブルとして構成されている必要があります。これは、HIVE バージョン 0.14 で導入された主要機能です。
190621	<p>ビッグデータ: ユーザー・データベースとして Hive ビッグデータを使用する Campaign では、最大 4 階層のベース・レベルおよびディメンション・レベルを使用してユーザー・テーブルをマッピングすることはサポートされていません。</p> <p>ベース・レコード・テーブルを「選択」プロセス・ボックスで 4 つのレベルのディメンション・テーブルとマップし、4 番目のレベルのディメンション・テーブルに基づいて照会をビルドすると、照会はエラー 11528 で失敗します。この問題は、ビッグデータ・ユーザーに影響を与えません。複数のディメンションは必要ないからです。定義上、ビッグデータ・ソースは、Hadoop ノード (HDFS など) 全体に大規模なテーブルのレコードを分散させています。</p>
185854	ビッグデータ: MS Windows オペレーティング・システムでは、ユーザー・データ・ソースとして使用する Hadoop ベースの Hive ビッグデータとの Campaign の統合がテストされていません。
194095	Redshift データベースで、データを「スナップショット」プロセス・ボックスからエクスポートする際に、「サポートされないタイプのタイムゾーン付きタイムスタンプ (Unsupported type timestamps with time zone)」というエラー・メッセージが表示されます。タイム・ゾーン付きタイム・スタンプは、Amazon AWS ではサポートされない PostgreSQL データ・タイプです。

表 8. Campaign の既知の制限 (続き)

ID	既知の制限
194806	<p>BLU: オプション「レコード置換」を指定してレコードをエクスポートすると、「スナップショット」プロセス・ボックスの実行がエラーで失敗します。このエラーは、BLU DB2 データベースで、「レコード置換」を選択した場合にのみ発生します。これは「データ追記」では発生しません。</p>
該当なし	<p>IBM WebSphere Application Server を使用して IBM Interact を構成する場合: JDK 1.7 を使用するよう に IBM WebSphere JVM を構成する必要があります。 IBM WebSphere Application Server 8.5.5.x に JDK 1.7 および HTTPS 通信を構成する場合は、 IBM JAVA SDK バージョン 7.0.8.10 以降を使用する必 要があります。</p>
該当なし	<p>未加工 SQL 照会で複数の SQL ステートメントを使用することは、ビッグデータのユーザー・データ・ソ ースでは現在サポートされていません。関連情報については、IBM Knowledge Center の「Hive 照会言語 の適合性」を検索してください。</p>
195581	<p>キャンペーン・フローチャートの実行中にリスナーが異常終了または停止すると、ユーザーはその実行中の フローチャートに UI からアクセスできなくなります。要求はクラスターの別のノードによって処理されま すが、このフローチャートにアクセスすると「リスナーのフェイルオーバーが発生しました... (listener failover occurred...)」というポップアップ・メッセージが表示されます。マスター・リスナーを再始動する 必要がある場合があります。</p>
196487	<p>DataDirect + Cloudera: 出力テーブル列のフィールドのいくつかマップされない場合、「スナップシヨ ット」プロセス・ボックスの実行が失敗します。これは、Hive 0.14 データベースに関連した既知の問題に関 連しています。回避策: マップされたデータベース・テーブルのフィールド数より少ない数のフィールドを 抽出する場合は、ユーザー定義フィールドまたはユーザー変数で埋めるか、デフォルトの望ましい値 (NULL など) で埋めます。</p>
184919	<p>ビッグデータ: 「メール・リスト」プロセスの実行が、ユニーク制約 (UCDUC9111.CCONTACTHIST_PK) 違反というエラーで失敗します。</p> <p>ユーザー・データベース・テーブル - オーディエンス・レベルが BigInt の場合、「メール・リスト/コー ル・リスト」プロセス・ボックスの実行は正常に完了します。しかし、以下のことが言えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー・プロファイル・テーブルに 10 進数形式のオーディエンス ID が含まれている場合は、このエ ラーは発生します。 • ユーザー・プロファイル・テーブルがファイルからデータベースへのエクスポートによって作成された場 合、デフォルトでは、すべての数値フィールドが 10 進数として作成されます。 <p>ビッグデータの場合: ユーザー・プロファイル・データベース・テーブルのオーディエンス ID は、 DB2 データベースで使用する場合、BigInt タイプである必要があります。ユーザー・プロファイル・データベ ース・テーブルのオーディエンス ID が 10 進数の場合、「メール・リスト/コール・リスト」プロセス・ボ ックスの実行でエラーが発生します。</p>
186489	<p>ビッグデータ: 直前の「選択」プロセス・ボックスでセル・サイズの制限を使用している場合に、「スナッ プショット」プロセス・ボックスに「エクスポートされたレコード = 不明 (Record exported = Unknown)」と表示されます。</p> <p>(1) INSERT INTO SELECT FROM の照会で「スナップショット」にデータを設定する場合、レコード数は 不明です。レコード数が必要な場合は、ベース・テーブルとしてマップしてください。そうすると、レコー ド数が Campaign によって計算されます。(2) ローダー (LOAD DATA) を呼び出すと、レコード数が認 識され、更新されます。テーブルをマップする必要はありません。</p>
該当なし	<p>フローチャート注釈は、ズームの影響を受けません。注釈のサイズは変更できません。注釈はパン操作領域 には表示されません。注釈はフローチャート・ウィンドウの外側に移動する可能性があり、それらにアクセ スするには、関連するプロセス・ボックスを注釈の方向に移動してから、注釈をドラッグしてメイン・フロ ーチャート領域に戻し、プロセス・ボックスを元の位置に戻す、という方法しかありません。注釈とプロセ ス・ボックスが重なり合う場合、注釈を別の位置にドラッグします。</p>

表 8. Campaign の既知の制限 (続き)

ID	既知の制限
176377	<p>ユーザー DB の DB2 10.5 BLU: Campaign データ・ソースの一時テーブルに索引付けの要件がありません。DB2 10.5 (BLU 機能が ON) では、Campaign で索引付けが必要ありません。Campaign には、データ・ソース用のプロパティがあります。例えば、TempTablePreTruncateRunScript、TempTablePostExecuteSQL、PostTempTableCreateRunScript など、その中で SQL やスクリプトを使用してユーザー・データベース・テーブルに索引を作成できます。DB2 10.5 をカスタマー・データベースとして使用して、BLU 機能が ON になっている場合、これらの一時テーブル・プロパティを構成する必要はありません。</p>
該当なし	<p>ダイアログの動作: フィールドをアクティブにしたり、フィールド値を変更したりするために 2 回クリックする必要がある場合があります。</p>
該当なし	<p>Campaign monitoring の monitorEnabledForEmessage 構成プロパティは現在使用されていません。</p>
該当なし	<p>関連製品に関する制限: IBM Marketing Operations からオファー管理を行う際は、製品 ID をオファーに関連付ける「関連製品」機能を使用できません。</p>
該当なし	<p>メール・リスト・プロセスでのユーザー定義フィールドからの結果が空であるか、または正しくない。これが発生するのは、値が変わる生成フィールド (UCGF) を呼び出すユーザー定義フィールドが使用されるプロセス・ボックスに限られます。</p> <p>メール・リストのユーザー定義フィールドでは、UCGF が定数でない場合に UCGF を使用しないでください。また「パラメーター」タブから、オファー属性にデータを設定するために UCGF を呼び出すユーザー定義フィールドを作成しないでください。</p> <p>詳しくは、次の技術情報を参照してください。 http://g01zciwas018.ahe.pok.ibm.com/support/pcf/preview.wss?host=g01zcidbs003.ahe.pok.ibm.com&db=support/swg/istech.nsf&unid=C4A93DC0ED188D6985257A6B00699C45&taxOC=SSCKNRB&MD=2012/08/31%2015:08:35&sid=</p>
該当なし	<p>Campaign 生成フィールド (UCGF) をプロファイルしても、正しい結果が生成されない。一部の UCGF の値は、セルまたは処理されるオファーに依存します。セル関連の UCGF の場合、プロファイル中は最初のセルに関連付けられた値だけが表示されます。</p>
該当なし	<p>ターゲット・セル・スプレッドシートを開いたときに、カスタム・セル属性のデフォルト値が表示されない。デフォルト値は、最初表示されませんが、使用されます。ターゲット・セルのスプレッドシートでカスタム・セル属性をクリックするか開いて編集することにより、値を表示したり変更したりすることができます。</p>
該当なし	<p>UA_UsrResponseType.Name フィールドに、左括弧とそれに続く単一引用符とを含めることができません。</p>
該当なし	<p>複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップする場合、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用する。</p> <p>Campaign 内の複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップし、それらのデータ・ソースのうちの 2 つ以上に同じ TempTablePrefix を使用すると、孤立した一時テーブルを削除するためにクリーンアップ・ユーティリティを使用したときに、実際には別の Campaign データ・ソースから定義された適正な一時テーブルであるのに、孤立した一時テーブルであるように間違えて識別してしまいます。</p> <p>削除された一時テーブルがあっても、関係するフローチャートを再実行するとその一時テーブルは自動的に再作成されますが、ベスト・プラクティスとして、複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップする場合は、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用してください。</p> <p>Campaign で定義されるデータ・ソースがデータベース内の別のスキーマにマップされる場合、もう 1 つの解決策は、クリーンアップ・ユーティリティを実行するデータベース・ユーザーが、同じデータベースの別のスキーマのテーブルをドロップする権限を持たないようにすることです。</p>

表 8. Campaign の既知の制限 (続き)

ID	既知の制限
11162	一部のダイアログ (大量のデータが含まれないものや、通常使用されないもの) はサイズ変更やサイズの最大化を実行できません。
17202	エラー 19024: セグメント・フォルダーからセグメントが削除された場合に、そのフォルダーを削除できない。フォルダーから削除されたセグメントは、そのフォルダー内で非アクティブなセグメントとして残ります。非アクティブなセグメントを含むフォルダーは、削除できません。これは所定の動作です。
18991	同じフローチャートが複数のロケールで編集されている場合、好ましくない動作が引き起こされるおそれがあります。この状態は、言語設定の異なる複数のユーザーが、同じフローチャートを編集する場合にのみ発生します。ロケールの異なる複数のユーザーは、別のロケールのユーザーによって作成された同じフローチャートを編集するべきではありません。そのようにすると、好ましくない動作が引き起こされるおそれがあるためです。推奨されているのは、言語設定が同じユーザーがフローチャートを作成および編集する方法です。
84147	プロセス・ボックスおよび他のダイアログでのコピー・アンド・ペースト動作: セキュリティー上の理由により、一部のブラウザでは、アプリケーションによるクリップボード経由のコピー・アンド・ペーストが許可されていません。この影響を受けるのは、コピー・アンド・ペーストを使用する可能性がある、セグメント・プロセス構成の「全般」タブとアプリケーションの他の領域です。
161323	「 IBM Marketing Platform セキュリティー ログイン」メソッドが「 Windows 統合ログイン」または「 Web アクセス制御」に設定されている場合、キャンペーン・ユーティリティーにログインしようとすると、「ログインに失敗しました。エラー 10553」というエラーが発生する可能性があります。この問題を回避するため、キャンペーン・ユーティリティーを使用する前に、ログイン・タイプを「 LDAP 」または「 IBM Marketing Platform 」に変更してください。
201968, 200241	フローチャートで 2 つのプロセス・ボックスを非常に近くに移動させると、接続矢印の向きが変わります。この制限は、矢印のビジュアル表示に影響します。プロセス・データ・フローには影響ありません。これを回避するには、2 つのプロセス・ボックスの距離を離して、矢印が正しい方向を向くようにします。

第 6 章 IBM Campaign Reports Package

Campaign Reports Package は、キャンペーン、オファー、およびセルのパフォーマンスを追跡するために使用できるレポート・スキーマを提供します。Reports Package を使用するには、Campaign が IBM Cognos と統合されている必要があります。

詳しくは、IBM Marketing Platform に付属の「*IBM Marketing Software Reports* インストールおよび構成ガイド」を参照してください。

IBM Campaign Reports Package には、以下の項目が含まれています。

- インストール時に IBM Marketing Platform に登録されたスキーマ。これらは、製品のレポート・スキーマを表す属性とメトリックを記述したもので、以下のものが含まれています。
 - レポート・スキーマの基礎となる基本スキーマ (カスタム属性なし)
 - Campaign 用に事前構成されたカスタム属性に依存する、大部分の基本スキーマのカスタム・バージョン
 - 新しいスキーマを作成するために使用できるテンプレート
- IBM Cognos BI サーバーに配置される、IBM Cognos のカスタマイズ可能なモデルとレポート
- IBM Cognos モデルとレポートについて説明した参考資料。これらの資料はディレクトリー `ReportsPackCampaign¥cognos10¥CampaignDocs` にあります。

Campaign レポートは、1 つのデータ・ソース、すなわち Campaign システム・テーブルからデータを取得します。

レポート・スキーマ

以下のレポート・スキーマが用意されています。

- 「キャンペーン・ビュー」では、Campaign システム・テーブルの標準属性ビューを見ることができます (キャンペーン、オファー、セルなど)。
- 「キャンペーン・カスタム属性」は、キャンペーン、オファー、およびセルのカスタム属性に関するレポートを作成するためのものです。
- 「キャンペーン・パフォーマンス」は、全期間またはさまざまな期間 (何日か、何カ月かなど) にわたって、キャンペーン・レベルで開始されるパフォーマンス測定を表示するレポートで使用します。
- 「オファー・パフォーマンス」は、全期間またはさまざまな期間 (何日か、何カ月かなど) にわたって、オファー・レベルで開始されるパフォーマンス測定を表示するレポートで使用します。
- 「キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細」は、レスポンス・タイプに基づく、キャンペーンとオファーのレスポンスを示すレポートで使用します。
- 「キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの内訳」は、コンタクト・ステータスに基づく、キャンペーンとオファーのコンタクトの測定に使用します。

カスタム・スキーマでは、上記にリストされたスキーマの最後の 5 つを拡張して、デフォルト、事前構成済みのレスポンス・タイプ、カスタム属性などを組み込みます。

テンプレート

追加のオーディエンス・レベルがある場合は、それらのために、以下のテンプレートを使用して追加のレポート・スキーマを作成することができます。

- キャンペーン・ビュー
- キャンペーン・カスタム属性
- キャンペーン・パフォーマンス
- オファー・パフォーマンス
- キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細
- キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの内訳

レポート

Reports Package には Cognos サンプル・レポートが入っており、それらのレポートには、キャンペーンまたはオファーの「分析」メニューまたは「分析」タブからアクセスできます。またレポートは、ダッシュボード上のポートレットに表示することも可能です。

以下に示すキャンペーン固有のサンプル・レポートは、キャンペーンの「分析」タブから取得できます。

- キャンペーン詳細オファー・レスポンスの詳細
- オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績)
- 月単位のキャンペーン・オファー・パフォーマンス
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)

以下に示すオファーのサンプル・レポートは、オファーの「分析」タブから取得できます。

- 「What If」オファー収支サマリー
- 日単位のオファー・パフォーマンス
- キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー

以下に示す、オブジェクト間で共通のサンプル・レポートには、Campaign の複数のオブジェクトに関する情報が含まれています。これらのレポートは、Campaign 分析ページから取得できます。

- 「What If」オファー収支サマリー
- キャンペーン詳細オファー・レスポンスの詳細
- オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績)
- 月単位のキャンペーン・オファー・パフォーマンス

- キャンペーン・パフォーマンス比較
- キャンペーン・パフォーマンス比較 (収益を含む)
- イニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス比較
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- セルおよびイニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- キャンペーン・サマリー
- オファー・キャンペーンのリスト
- 日単位のオファー・パフォーマンス
- オファー・パフォーマンス比較
- オファー・パフォーマンス・メトリック
- キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー

以下に示すキャンペーン固有のサンプル・レポート・ポートレットは、ダッシュボード・ページから取得できます。

- キャンペーン奏効率の比較
- キャンペーン投資収益率の比較
- オファー別のキャンペーン収益比較
- オファー・レスポンスの詳細
- オファー奏効率の比較
- 最終 7 日間のオファー・レスポンス

IBM 技術サポートへのお問い合わせの前に

資料を調べても解決できない問題が発生した場合は、IBM 技術サポートへの問い合わせを、貴社の指定のサポート窓口担当者が記録することをお勧めします。このガイドラインを使用して、問題を効率的かつ成功裏に解決してください。

貴社の指定のサポート窓口担当者でない方は、社内の IBM 管理者にお問い合わせください。

注: 技術サポートは API スクリプトの記述も作成も行いません。API オファリングの実装に関して支援が必要な場合は、IBM 専門サービスにお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートに問い合わせる前に、以下の情報をご用意ください。

- 問題の性質についての簡単な説明。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 製品およびシステム環境に関する情報 (『システム情報』の説明に従って取得できます)。

システム情報

IBM 技術サポートにお問い合わせいただいた際に、お客様の環境についてお尋ねすることがあります。

ログインできない問題でなければ、その情報の大部分は、インストール済みの IBM アプリケーションに関する情報が表示される「バージョン情報」ページから取得できます。

「バージョン情報」ページにアクセスするには、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択します。「バージョン情報」ページにアクセスできない場合は、アプリケーションのインストール・ディレクトリーの下にある `version.txt` ファイルを確認してください。

IBM 技術サポートへのお問い合わせ情報

IBM 技術サポートへのお問い合わせ方法については、IBM 製品技術サポート Web サイト (http://www.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照してください。

注: サポート要求を入力するには、IBM アカウントを使ってログインする必要があります。このアカウントは IBM カスタマー番号とリンクしていなければなりません。

ん。アカウントを IBM カスタマー番号と関連付ける方法については、サポート・ポータルの「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
B1WA LKG1
550 King Street
Littleton, MA 01460-1250
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式

においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよびご利用条件に関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザーに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置す

ることを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan

日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21